

会 議 名		令和5年度(2023 年度)八王子市医療連携推進懇談会
日 時		令和6年3月4日(水) 19 時 30 分～20 時 30 分
場 所		八王子市保健所 401 会議室
出 席 者	出 席 者	八王子市医師会会長(医師会)、東京都八南歯科医師会会長(八南歯科医師会)、八王子薬剤師会会長(薬剤師会)、東京医科大学八王子医療センター病院長(医療センター)、東海大学医学部附属八王子病院病院長(東海大)、南多摩病院院長(南多摩病院)、多摩南部地域病院院長(多摩南部地域病院)、八王子市健康医療部長(健康医療部長)、八王子市保健所担当部長(保健所長) ※()内は会議録における呼称
	事 務 局	健康医療政策課長、保健総務課長
欠 席 者		
次 第		1. 開会 健康医療部長 挨拶 2. 報告事項 (1)医療連携による早期医療対応(精密・専門外来・入院)ネットワーク事業 (2)医療連携ネットワーク事業 小児救急診療 (3)歯科医療連携推進事業及び障害者等歯科診療事業 (4)八王子市医療安全支援センターの事業実績状況等 3.その他 (1)能登半島地震における活動についての情報交換 4.閉会 保健所担当部長 挨拶
公開・非公開の別		公開
傍 聴 人 の 数		なし
配 付 資 料 名		次第・座席表・出席者一覧(敬称略) 【資料1】医療連携による早期医療対応(精密検査・専門外来・入院)ネットワーク事業結果表 【資料2】地域医療支援病院実績(医療センター、東海大、多摩南部地域病院) 【資料3】医療連携ネットワーク事業(年度集計) 【資料4】「八王子市在宅要介護者等かかりつけ歯科医紹介事業」の実績 【資料5】八王子市障害者歯科診療所実績 【資料6】医療安全支援センターの事業実施状況について 【資料7】医療安全相談窓口相談事例

会 議 の 内 容	1. 開会 健康医療部長 開会挨拶 本日は遅い時間にも関わらずお集まりいただき、ありがとうございます。 八王子市における医療連携を推進するために平成15年から行っていたが、コロナ禍でしばらく中止をしていた経緯がある。各病院で行っている地域医療支援委員会と重なる部分もあるため、この会のあり方についても話し合いたい。 2. 報告事項 <u>(1)医療連携による早期医療対応(精密・専門外来・入院)ネットワーク事業(資料1)(資料2)</u> 【健康医療政策課長】 資料1の表は両中核病院の新規の外来、紹介率の表になっている。医師会、歯科医師会から受けた紹介受数の令和5年上半期実績は 50.2%となっている。総紹介受数は 77.5%となっており、近年は 7、8割前後で推移している。両中核病院の地域医療支援病院としての役割が、病院、診療所へ浸透しており、医師会を中心とした地域の医療機関との連携の結果であると考え。総返送率に関しても、例年 55%前後で推移している。 多摩南部地域病院の実績については資料 2-3 のとおり。地域医療支援病院の承認基準に基づく紹介率は 85.3%となっている。 【健康医療部長】 両中核病院から補足説明はあるか。 【東海大】 八王子医療センターと同程度の数値で推移しており、満足している。毎年東京都から小児科医師の補充を1名いただいております、引き続きご尽力賜りたい。 【健康医療部長】 東京都と行政間の調整をしている。行政としてできることはしていく。 【健康医療政策課長】 <u>(2)医療連携ネットワーク事業 小児救急診療(資料3)</u> 小児救急全夜間事業について、平成 20 年度の両大学病院の受診者合計は 12,238 人で、夜間救急診療所で行っていた小児科の件数を合わせると 15,000 人超の受診があった。令和4年度は南多摩病院を合わせて 4,500 人程度で、70%減少している。今年度も60%近くの減少が想定される。小児救急は平成23年度から南多摩病院も加わっている。両大学病院の救急患者は15年間で 16%減少している。受診者減の要因についてはコンビニ受診をしないよう啓発してきた。かかりつけ医の政策が進んでいるものと考え。 電話相談事業については、東海大、八王子医療センター、南多摩病院の電話相談のみで換算した件数になっている。電話相談ののち受診した場合は、電話相談に計上せず、「小児休日・全夜間救急医療事業」もしくは「小児科休日夜間外来」の件数として計上している。受診者数及び電話相談件数は、10 年の間に 50%ほど減少しており、これもかかりつけ医の定着が進んでいるものと考え。昨年 10 月から夜間救急診療所の運営を南多摩病院に委託しているため、今後は集計方法の変更が一部必要と思われる。
------------------	---

	【健康医療部長】 出生率の減少も影響が大きい。令和4年と5年で出生数が 100 人減っている。その上でコンビニ受診をしないよう啓発することと、かかりつけ医の定着が進んでいる結果と考える。 <u>(3) 歯科医療連携推進事業及び障害者等歯科診療事業(資料4)(資料5)</u> 【健康医療政策課長】 資料4、歯科医療連携推進事業及び障害者等歯科診療事業について、歯科医療連携推進の実績だが、令和4年度下半期はキャンセルを除く 22 件の診療が行われた。令和5年度上半期は 15 件である。年度別に見ると、令和4年度が過去最高の水準であり、かかりつけ医とするかどうかの定着率に関しても令和4年度が 97.6%、令和5年度が 100%と高い水準になっている。 資料5、八王子市障害者歯科診療所実績だが、診療患者数、初診受付数ともに令和4年度と同等並みの実績になっており、新型コロナの影響は概ね落ち着いたように思われる。割合で見ると、障害児の割合が増加しており、初診患者数の多くが市内患者を占める割合となっている。 【健康医療部長】 歯科から補足はあるか。 【八南歯科医師会】 障害別・疾患別の割合は毎年ほぼ同程度。多摩市の障害者歯科診療所も同じようなデータである。今後とも市民の役に立ちたい。 【健康医療部長】 両中核病院の口腔の先生に大変お世話になっている。そのバックボーンがあるから診療ができています。 <u>(4) 八王子市医療安全支援センターの事業実施状況等(資料6)(資料7)</u> 【保健総務課長】 資料6、医療安全支援センターについて、大きく分けると相談機能と研修機能がある。それぞれについて報告する。相談機能は原則電話受付。平成 30 年がピークで、令和 4 年度は 806 件、令和5年度上半期は333件の実績となっている。この実績は半期ごとにまとめ、3師会に報告している。現在は窓口を会計年度職員が担当しており、令和6年度4月から委託化の予定だが、報告は今までどおり市が行う。 研修機能は、市内医療機関を対象に医師会と共催して研修を行っている。令和4年11月に開催した研修では、一橋大学の児玉先生を招き、25名が参加した。令和5年度に行った研修では、弁護士の墨岡先生を招き実施し、49 名が参加した。 別添の資料では主な相談内容をまとめている。センターの相談機能としては、傾聴に専念することを心掛けている。 【健康医療部長】 診療所の相談は市が窓口で、病院は都が窓口になっている。質問等あるか。 【医療センター】
--	--

	我々も直接クレームを受ける窓口があるが、受けたクレームを現場にどうフィードバックしているか、対応していないと思われたいようにするにはどうするか苦慮している。どのような工夫をしているか。 【保健総務課長】 対応内容の公表はしていないが、個別対応の中で医療制度を理解してもらうことに専念している。 【健康医療部長】 健診や市の事業に絡むことに関して回答を用意したことはあるが、基本的には傾聴に専念している。 【八南歯科医師会】 東京都歯科医師会でも裁判になるようなクレームを請け負っている部署があるが、傾向としてはインプラント矯正治療などの自由診療に対するクレームが多い。八王子市も同じようだという感想を持っている。 【健康医療部長】 保険が適用にならないものはクレームになりやすい。 【保健総務課長】 当課でも、インプラント等高額な医療費のかかるもの、その中で思ったような効果が出ていないものなどのクレームは結構あると聞いている。 3. その他 (1) 能登半島地震における活動についての情報交換 【健康医療部長】 能登半島地震における活動報告について、南多摩病院益子先生から報告をいただく。 【南多摩病院】 地震が起きてすぐ、安藤理事長から支援隊を準備するようにと指示があり、すぐに編成に取り掛かった。翌日の夕方には医師、看護師、救命士 2 名の合計 4 名の第1陣を能登半島に派遣した。富山県庁、石川県庁に入って能登総合病院まで北上していき、最終的に市立輪島病院に行ったという経過である。その間に被災状況や医療ニーズの把握をし、災害対策本部会議に参加。現地の AMAT の立ち上げをし、輪島病院のスタッフが疲弊していたため、救急夜間診療を AMAT が担った。また、救急車の患者、ウォークインの患者の診療も行った。第1陣が1月2日から1月5日、第2陣も同じ布陣で1月5日から1月8日まで勤務した。市立輪島病院に向かい、救急や発熱外来の診療支援、入院患者の管理、病棟看護の支援などを行い、救急車の患者、ウォークインの患者の診療を行った。 次のスライドは1月5日の能登半島地震災害 DMAT 活動拠点本部のウェブ会議の資料だが、南多摩病院の先遣隊が富山から石川に入り、能登半島の北部で診療活動を行った。また、J-RAT、日本リハビリテーションの協会が災害リハビリテーション支援チームというものを持っており、そのスタッフとして 1 名のリハビリスタッフが1月12日から17日まで穴水地域、志賀町の巡回支援を行っ
--	---

	た。 次に、日本医師会の編成する救急災害医療チーム J-MAT が医師 1 名、看護師 1 名、救急救命士 1 名、検査技師 1 名の合計4名を2月14日から17日まで能登北部地域に派遣し、開業医療再開のサポートや高齢者施設の巡回診療調整支部での統括業務などを行った。 次のスライドは永生会に関する資料だが、永生病院チームは1月16日から18日までは J-RAT として理学療法士が 1 名本部に派遣され、1月21日から25日まで東京都看護協会として看護師が1名派遣された。22日から29日までは空飛ぶ捜索医療団 ARROWS のメンバーとして臨床検査技師が現地に派遣された。また、2月27日から3月1日までは日本グループホーム協会の人的支援ということで、介護職2名が被災地に入った。3月14日から17日は、東京 J-MAT 第5次派遣隊として永生病院の医師、看護師2名、臨床工学医師が被災地に入って活動する予定である。当法人の安藤理事長も被災地の視察並びに J-MAT の激励に被災地に入り、能登北部基幹病院として活躍した七尾市にある慶寿総合病院を訪問し、ヒアリング調査を行った。慶寿総合病院は3棟あるが、2棟は耐震、1棟は免震構造であり、耐震構造はひび割れ等の被害があったのに対し、免震構造の方は被害が全くなく、そちらに患者を移して診療を行った。 【健康医療部長】 ありがとうございます。それぞれの病院の活動状況はいかがでしたか。 【医療センター】 1 月2週目後半に DMAT の要請を受けて第1陣が入った。避難所にいる方の災害関連疾患予防の指導などをメインに行った。第2陣を準備していたが、要請がなかった。それ以外に要請を受けて、看護師とワーカーが対応している。 【東海大】 若いスタッフから行きたいとの要望があり、変則シフトを組んでいたが声がかからなかった。南多摩病院の益子先生、何か工夫はありますか。 【南多摩病院】 災害における急性期は、DMAT が先発で各地区から参集されるが、今回の能登半島地震は DMAT の立ち上げが遅れ、全日本病院協会の AMAT が最初に入った。日本医科大学の DMAT としていくメンバーも、先に立ち上がった AMAT として現地に入ったという経緯がある。どういう経緯で立ち上げが遅れたか把握していないが、DMAT の事務局だけではなく、全日本病院協会等の他の組織と連絡を取れると迅速に出動できるかもしれない。 【健康医療部長】 薬剤師会でも人員を用意していたが、最終的に派遣ができなかった経緯があった。 【薬剤師会】 モバイルファーマシーを所有しているが、出遅れてしまい、実際にはいくことができなかった。2月25日に出動の要請が来たが、その時点で現地のモバイルファーマシー全8車両が引き上げたため、出動には至らなかった。
--	--

	【健康医療部長】 日頃いつでも出動できるベースを作っておかないといけない。行政が手伝った方が良かったかもしれない。 【薬剤師会】 現地に行った他団体のモバイルファーマシーは、地震当日の夜に出発して、1月2日には現地に入っていたという経緯があった。命令系統がなくてもとにかく向かったようだ。 【南多摩病院】 一つ追加したい。今回の災害は、自衛隊、赤十字、AMAT、DMAT 等々の災害支援チームがそれぞれ頑張っていたが、県などにおいて全体を統括する組織が無かった。そのような組織が出てくると急性期の災害医療が効果的になるのではないかという報告を受けている。 【健康医療部長】 市が出した保健師の報告でも似たような話があった。保健活動という名目で行ったが、現地に行ってみると医療活動も必要とされていた。もともと自立していた方で介護の申請をしたことがない方が体育館に来てみると、要介護の状態で支援が必要だったという経緯があり、実際には保健と医療と福祉と3つの活動を行った。多職種の専門職が入る中で、看護師の立場や保健師としての立場で交流があり、多岐に渡る話し合いがあったとの報告を受けている。 【医療センター】 DMAT が遅れた要因は、本部の命令が出なかったからである。また、AMAT などとの横の連携がうまくいっていなかったと思う。我々も、もしも八王子で災害が起きたらということを考えているが、いかに本部機能を早く立ち上げて、応援部隊をどのように配置するか、指示を出すかが重要だと考える。我々災害拠点中核病院であったり、あるいは市役所であったり、保健所であったり、そういうところで災害対策本部を早急に立ち上げないといけない。 【医師会】 東京都医師会でも被災地への派遣の話題が出たが、発災してから間もない時期は勝手に行く方がいた。道路が万全でない状態のところに行って、結局脱輪などで現場に迷惑を余計かけたということがあった。やはり上からの正確な指示系統がない状態では行かないでほしいという指示が東京都医師会から地区医師会に出た。指揮命令系統が整った形でないとうまくいかない。 【健康医療部長】 ありがとうございます。振り返ると、八王子市のコロナ対策は何故うまくいったかというところと繋がる部分があると思う。我々はその経験を持っているが、発災時は更に短時間での対応が求められるので、しっかり行っていきたい。 最後に、この懇談会のあり方含め、幅広い意見交換、情報交換を行いたい。冒頭に申し上げたが、今日はコロナ以前の形を振り返り、最近の活動についても報告するために開催した。集まった情報の意義はありながらも、他の会議で内容が被る部分も多くある。この会のあり方について、ご意見をいただきたい
--	--

	【医師会】 地域医療支援委員会と同じ内容の報告があるが、本会をその1回分にはできないか。 【医療センター】 主催は必ず病院でなくていけないので、同日開催をしているが、主体はそれぞれってところが国の決まり的なところ。 【保健所長】 確かに、双方のやり方にはなったと思う。 【東海大】 従前から申し上げているが、地域医療支援委員会は年4回開催している。本会がその1回にカウントされればより効率的な会になると考える。 【健康医療部長】 ご意見ありがとうございます。 多摩南部地域病院の大貫先生、ご意見等ありますか。 【多摩南部地域病院】 多摩市にはこのような懇談会はない。この会自体が非常に新鮮であった。 【健康医療政策課長】 多摩南部地域病院がこの会に参加した経緯が分からず、過去の担当職員に確認したところ、医療センターと東海大よりも先に多摩南部地域援病院が地域医療支援病院になっていたため、経験に基づく意見交換のためという理由が1つ。あとは、ニュータウンエリアの方の状況などについての意見聴収のためという経緯がある。 【健康医療部長】 八南歯科医師会の菊田先生、いかがですか。 【八南歯科医師会】 この会への参加は久々だが、私にとっては議題が新鮮。地域医療連携の会は年4回あるので、そのあたりも踏まえて、もっと効率的な運営ができればいいと思う。 【健康医療部長】 八王子市の独自の報告というと、歯科、医療安全支援センター、夜間救急診療所の部分なので、各病院の地域医療支援委員会とかなり被る部分があると考えている。南多摩病院は夜間救急診療を受託しているが、会のあり方などご意見いただくと助かるが、いかがですか。 【南多摩病院】 夜間救急診療事業を10月から引き受けている。今のところ順調に運営しているのが、運営が適切に行われているのかを関係者が一堂に会して評価、点検する場があるといい。 【健康医療部長】 おっしゃるとおり。他に皆さまからご意見等ありますか。特段なければいただいた意見を事務局で練って提案することとしたい。
--	---

	4. 閉会 保健所担当部長 挨拶 夜遅い時間にもかかわらずお集まりいただきありがとうございます。今回は被災地支援の話なども情報共有ができ有意義であったと考える。今後のあり方については、事務局とも相談をさせていただく。 今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
--	--